

— 新しい皮袋の創造をめざして —

JTJ

Jesus to Japan

NEWS

Dec. 2025

Vol.
159

すでに天に生きる者 — 死後ではなく、今ここにある神様の国



学長 重田 稔仁

「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神様の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神様の内に隠されているのです。」

(コロサイの信徒への手紙 3:1-3)

多くの人は「死んだら天国に行く」と考えますが、イエスは「神様の国はあなたがたのただ中にある」(ルカ 17:21)と言われました。天国とは、死後に行く場所ではなく、今ここに実現する神様の支配、神様の臨在そのものです。

パウロは「神様は私たちをキリストと共によみがえらせ、天上に座らせてくださった」(エペソ 2:6)と語ります。これは未来の約束ではなく、すでに起こった霊的現実です。クリスチャンはすでに「天に属する者」として生かされています。

「永遠のいのち」とは、神様との交わりに生きるいのち(ヨハネ 17:3)。それは時間的に続く命ではなく、神様との関係そのものがいのちであり、喜びです。「キリストのうちにある者は新しく造られた者」(Ⅱコリント 5:17)。古い自己は過ぎ去り、天に属する新しい存在として歩み始めています。

肉体は滅びても霊は生き続けます。「血肉のからだは神様の国を受け継ぐことができない」(Ⅰコリント 15:50)。死は終わりではなく、霊の身体への変容、次元の移行です。

ゆえに私たちは「上にあるものを求め」(コロサイ 3:1)、地上に生きながらも心は天に向けられています。祈りと礼拝、そして愛の行為の中で、すでに天国の現実を味わうことができます。

神様の国は「すでに」始まり、「いまだ」完成していない世界です。信仰生活とは天を待つことではなく、天の現実を地に生きること。天国は行く場所ではなく、“生きる現実”、それが、キリストと共に今を生きる者の真の姿です。

MERRY
CHRISTMAS



わたし、教会を始めました (2) — 洗礼からの歩みと「教会の7つの本質」—

岡山ニューライフ教会 伝道師
東京オルチャーチ

坂本 美由紀

主の御名を心より賛美いたします。

この小さき者を用いてくださる主に、心から感謝いたします。洗礼を受けてから2年。振り返ると、岡山ニューライフ教会の佐藤牧師に薦められて学んだ「教会の7つの本質」が、私の信仰の歩みに深く根を下ろしていることに気づかされます。

「関係・参加・能力付与・イエス様中心・伝道と増殖・ネットワーク・適応可能な構造」この7つを「傘の家で寝て」と覚えた学びが、今も私の信仰生活の土台となっています。

教会の7つの本質とは？

JCMN が掲げる「教会の7つの本質」は、2000年に世界中の教会リーダーたちが集まり、聖書に基づく教会の在り方を話し合って導き出されたものです。方法論ではなく「本質」に焦点を当てており、教会がいのちに満ちた共同体として成長するための指針として、多くの信徒に力強い土台を与えています。この本質が私の内に根付き、オルチャーチの歩みと重なっていることを分かち合える恵みに感謝します。



【関係】— 神様との深まり、神の家族とのつながり—

オルチャーチの礼拝では、集う一人ひとりがあるのまの自分で神様の御前に出て、神様との関係を深めています。その後の分かち合いでは、神の家族としての絆も祈りによって育まれています。礼拝は、神様との関係と人との関係が交差する、いのちの場となっています。

【参加】— 共に担う喜び—

当初は「私一人ですべての奉仕をしなければならない」と重荷を感じていました。しかし「共に神の国に参加する」という視点が与えられ、その日に来られた方々に小さな奉仕をお願いするようになりました。「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる、生きたささげ物として献げなさい」(ローマ12:1) この御言葉に触れるたび、奉仕を通して私たちの存在が神様に向かって開かれていく感覚が育まれています。

【能力付与】— 賜物を信仰で用いる—

神様は一人ひとりに「私のためにやってくれるか？」と問いかけ、使命を託してくださいます。私は時に多くを抱え込み、自分の力で成し遂げようとしてしまいましたが、それは神様の栄光ではなく、自分の満足のためであると気づかされます。与えられた賜物を土に埋めるのではなく、信仰をもって分かち合い、隣人の徳を高める器として用いられる者でありたいと願っています。

【イエス様中心】— 本当の自由と平安—

「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」(ガラテヤ2:20) この御言葉が私の心に深く刻まれています。自分中心ではなく、イエス様の御心に聞き従うことが、本当の自由と平安をもたらすことを実感しています。オルチャーチは、聖霊様が働かれる「イエス様中心」の教会でありたいと願っています。

【伝道と増殖】—— 愛のデリバリー ——

神様の愛が広がっていく様子を思い描くとき、オルチャーチはただ受け取るだけでなく、出ていく時にそれぞれの使命を受け取り、出発の扉を開くことができるよう祈っています。「世の光・地の塩」として歩む姿は、聖霊様の働きによって生まれる愛のデリバリーです。救われた魂への深い愛を、何より大切にしています。

【ネットワーク】—— 教会同士のつながり ——

教会は単独ではなく、広がりつつながりの中で共に成長していく姿を、神様は喜ばれると信じています。「キリストによってからだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります」(エペソ4:16) この御言葉の通り、教会同士が互いに支え合い、神の国をこの地に広げていくことを祈り求めています。

【適応可能な構造】—— 柔軟さがいのちを育む ——

忙しく変化する時代の中で、柔軟に神様の働きを進めていく必要があります。オルチャーチでは、都市型のライフスタイルに対応するため、個人礼拝・オンライン礼拝・小グループでの交わりを積極的に取り入れています。「新しいぶどう酒は新しい革袋に」このイエス様の教えに従い、柔軟な構造を持つことが、オルチャーチをいのちある教会に成長させてくださると信じています。

罪から信仰へ、揺るぎない歩み

「すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです」(第1コリント9:22) この御言葉が、私の心にいつもあります。以前は「自分の罪など許されるはずがない」と思っていました。しかし「教会の7つの本質」を学び、実践する中で、すべてを神様の計画

と捉え、自然に湧き上がる信仰を歩むようになりました。私の信仰は、聖霊様の助けによって今も揺るぎないものへと変えられ続けています。

伴走者の恵み

私にとって岡山ニューライフ教会の佐藤牧師が、「教会の7つの本質」の講師として、また母教会の牧師として、忍耐をもって私の信仰の伴走者となってくださっていることは、何よりの恵みです。祈りと励ましの中で、わからないことを「わからない」と言える環境が与えられ、私の葛藤に耳を傾け、神様の御心に目を向けるよう導いてくださっています。

次回に向けて

今回も分かち合いのひとつきに恵まれ、聖霊様の導きに心から感謝いたします。

今回は、「弱さの中で祈ったとき、神様が見せてくださったオルチャーチのビジョンと励まし」についてお届けできればと願っております。心が折れそうな瞬間、どんなに小さな祈りであっても、神様は決して見過ごされることなく、立ち上がる力を与えてくださいます。

そのような恵みの体験を、祈りつつ心を込めて準備させていただきたいと思います。

神様の平安と祝福が、皆様の毎日に豊かにありますように。



夜の街に良い知らせを

「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。」(マタイ9:13)

歌舞伎町エクレシア KIYO

■ 救われた証

幼稚園の頃から学生生活はほとんど不登校で16歳から夜の街で働き、善悪の分別がなく、どのように生きたらいいのかわからず荒れた生活を送っていました。いつも暗闇の中に生きているようで、いつ死んでもいいと思いながら出口の見えないトンネルを歩いているような日々でした。

29歳の時に幻覚や幻聴に悩まされ、クリスチャンが家に来てくださり、イエス様に会いイエス様を私の主として受け入れ、悔い改め、幻覚幻聴も癒されました。イエス様は希望が持てなかった人生に回復を与えてくださり、現在は愛する夫に会い一児の母となりました。神様は暗闇の中にいた私の名前を呼び、一方的に憐れみ、恵みを与えてくださる方である事を体験しています。

■ 歌舞伎町での導き

イエス様に救われてから「夜の街に福音を伝えたい」という思いがいつもありました。4年前に東京に来て「東京の夜の街といえば歌舞伎町だ」と思い、歌舞伎町でまず神様を求め、祈りと賛美を捧げることを友人と二人で始めました。

その後、多くの同じ心を持つクリスチャンに神様は出会わせてくれました。

時が来て歌舞伎町でアウトリーチを始め、今は個人的な繋がり、仲間達と青少年の住むシェアハウスに訪問する働きが開かれました。

シェアハウスに頻繁に通うようになると青少年達に「キリストの人たち」という名前で覚えられ、全て私たちの力でなく神様が彼らの心を開き、福音を語る時も彼らと祈る時も、救いの時も準備してくださっている事を覚えます。出会う若者たちは壮絶な生い立ちで傷ついた子たちが多く、家庭の崩壊、住む場所がない、困窮や妊娠、ホストのこと、オーバードーズ、沢山の悩みを聞きました。

私たち救われた者がこの事について立ち上がり、祈り、手を取り合っていける事を願います。

■ 歌舞伎町エクレシアのスタート

約一年前、韓国のモルデカイ・アドラムさんと李ルダさんと共にエクレシア(教会)をスタートしました。主に新宿付近で礼拝を捧げ、「イエス様が中心となり、イエス様がエクレシアの王である」ことに重きをおいて、聖霊様に聞き従い、主の臨在をいつも求めることを心がけています。

いつか歌舞伎町の中心に24時間礼拝と祈りが捧げられ、歌舞伎町の方々の隣人となり仕える事ができる場所が与えられる事を私たちは祈り求めています。

神様が諦めないように、わたしたちも諦めず、主の御業に期待しています。

全ての栄光が私たちの王イエス・キリストにありますように。



シェアハウスにて(右が筆者)



歌舞伎町エクレシアのみなさんと



ボクは神様の偉大な作品！

はなみずきペテルチャーチ牧師

西住 啓 (J T J 講師)



「偉作、部屋の電気のスイッチ消しちゃダメ！ はやくスイッチつけなさい！！」……我が家の長男、偉作くんはいたずら盛りで甘えん坊。すきがあればいたずらに走る様子に「怪獣くん」というあだ名をつけてしまいました。「西住怪獣くん！」って呼ぶと、ニコニコして「ハイ」って手を挙げて返事をするほどです。それでもカワイイ……偉作は現在6歳。来年4月には小学校……ではなく特別支援学校に入学します。

偉作はダウン症児です。そして、私たち夫婦と血のつながりはありません。2022年、偉作が2歳のときに養子で迎えた子どもです。民法で定められている養子制度には二種類あり、実親さんとの親子関係が残る「一般養子」と、実親さんとの親子関係が終了して養親の戸籍に入り実子として扱われる「特別養子」がありますが、偉作は特別養子として我が家に迎えました。

私たち夫婦は結婚して13年になりますが、残念ながら子どもは授かりませんでした。ただ、男の子が生まれたら「イサク」という名前にしようと結婚当初から決めていました。「イサク」とはもちろん、創世記に登場するアブラハムが百歳を過ぎて与えられた約束の子どもです。

戸籍上の名前の変更はまだですが、私たち夫婦は養子で迎えたこの子に「偉作」という名前を付けました。「神様の偉大な作品」という意味を込めています。ダウン症として生まれたことにも、そこに天地万物を造られた神様の偉大なご計画があると、私たち夫婦は信じています。そのことをこの子にわかってほしい、

神様に特別に選ばれた「偉大な作品」であるという誇りをもって生きて欲しい。これから先、ダウン症ゆえに逆境に遭うことがあっても、「ボクは神様の偉大な作品なんだ！」「神様がボクをこのように作ったんだから、これでいいんだ！」と逆境に負けることなく立ち上がってほしい。そうした思いを込めて「偉作」と名付けました。

偉作は養子です。でも、私たちの戸籍に実子として入ったことで、様々な福祉制度も実の子どもと同様に受けることができ、私たち夫婦の愛情を一身に受けています。

実は、イエス・キリストを救い主として信じる私たちもまた、神様の愛情を一身に受けている「養子」なのです。

「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは『アバ、父』と叫びます。」(ローマ8:15)……「子とする御霊」は、原語を直訳すると「養子の霊」(プネウマ ヒュイオセシアス)となります。父なる神様・子なる神様・聖霊なる神様の、三位一体の神様の、子なる神様であられるイエス・キリストとともに、神様の子どもとされた者には、聖霊なる神様が惜しみなく愛情を注ぎ、資産を受け継がせてくださいます。

いたずらっ子で甘えん坊の偉作の笑顔を見ながら、「アバ、父」＝「お父ちゃん」と神様に叫ぶことができる幸いを、しみじみと神様に感謝しております。



トピックス

Topics

●学校説明会のお知らせ

日時：12月13日(土) 13:00～14:00

会場：JTJ宣教神学校（Zoomでの参加も可能です。）

神学校での学びにご興味のある教会の方やご友人がい
らっしゃいましたら、ぜひこの説明会をご案内ください。
参加のお申し込みは、JTJ宣教神学校のホームページより
受け付けております。

●JTJニュースレター（メール版）のご案内

前号より、JTJニュースレターはメールでお届けする形式
に変更となりました。どなたでも無料で購読いただけます
ので、ご友人や教会の皆さま、JTJ宣教神学校にご
関心のある方々へ、ぜひご紹介ください。

メール版の受け取りにはお申し込みが必要です。

右記QRコードよりお申込みください。



スクーリング

Schooling

■「説教演習」Zoom スクーリング

2026年1月31日(土) 9:00～12:00

「説教演習」講師：岸 義紘

説教演習は一人20分以内です。

学校に来ての対面での演習でも結構です。

参加費：1,000円

*スクーリングのお申込は、左記QRコードかお電話で
お申し込みください。

■公開講座

賛美奉仕と音楽伝道の力

～高らかにほめうたい、福音を伝えよう～

2026年3月4日(水)、3月6日(金) 19:00～21:00

講師：塩谷 達也(ゴスペルシンガー、Paz Church伝道師)

参加費：無料

Zoomか教室での対面受講が選べます。

*公開講座のお申込は、左記QRコードか学校ホームページ
からお申し込みください。

●新刊書案内

デボーションブック

『神様から信仰を始めるために』

中村 穰

(飯能の山キリスト教会牧師、JTJ講師)

いのちのことば社 1,870円(税込)



自分の信仰を確立しようとすることに疲れた人、是非、
神様から信仰を始めてみませんか？

旧約、新約、霊性の神学から信仰を学ぶ366日のデボ
ーションブックです。



ハウスチャーチ便り

第55号

バプテスマ！天でもざわめきが起こる

茅ヶ崎ハウスチャーチ 小平 渉
watarukodaira724@gmail.com

「ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに
喜びがわき起こるのです。」(ルカ福音書 15:10)

最近、私たちのハウスチャーチの礼拝で、70才後半の
MT 姉妹が洗礼を受けました。これは姉妹の人生を変え
る重大事です。

MTさんは、まだこの礼拝に来て少ししか時間が経って
いません。また聖書もあまり読んでいませんが、「この温
かい教会の輪に加わりたい、そして生涯をかけてイエス
を信じていきたい」とのことです。

新しく生まれ変わったMTさんと共に、そこに新しい主
にあるコミュニティ、エクレシヤ、教会ができることを
祈る。主の祝福あれ！

ピリピのルデヤ川で
行われた
3人の少女の洗礼式
(2009年5月撮影)



お問合せ・各申込先

JTJ宣教神学校

TEL.03-3842-3412 E-mail:jtj@jesustojapan.com

★JTJ 宣教神学校ホームページ <https://jesustojapan.com>

スクーリング、公開講座等のお申し込みがこちらから
できます。学生・卒業生用ページを設けています。



★JTJ YouTube チャンネル



★学校公認TikTok



★Instagram

